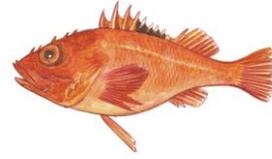


キチジ (*Sebastolobus macrochir*)



生態

- ①寿命：成長は十分に解明されていないが、20歳程度には達すると考えられている。
- ②成熟：50%成熟体長は、雌は15cm、雄は9cm。
- ③産卵期：1～4月。
- ④分布：駿河湾以北の太平洋岸沖、北海道・千島列島の太平洋岸沖、オホーツク海及びベーリング海に広く分布する。
- ⑤生態：エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類を捕食する。

主な漁業と漁期

本県では主に沖合底びき網で漁獲される。主漁期は3～6月と9月。

資源動向と水準

沖合底びき網は、近海でスルメイカやサバなどの漁獲が少なくなり、海が時化なければ沖合で操業し、キチジ等の深海魚を狙うようになるため、資源量と水揚量の推移は一致しない。近年スルメイカやサバを漁獲しているためにキチジに対する漁獲圧は低下しており、取り残し資源量が多く、資源水準は高位にある(図1)。

本県のキチジの水揚量は、100～400トン台で推移し、2000年台は300トンを超えていたが、2013年以降は100トン台で推移している(図2)。

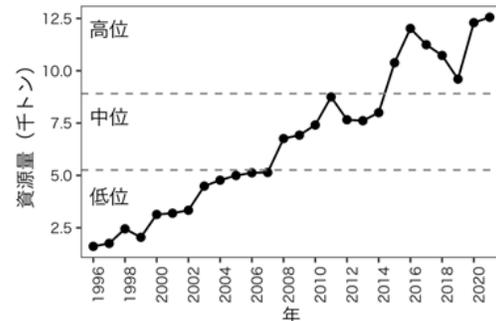


図1 キチジ太平洋北部系群の資源量の推移の推移(金森ら(2022)参照)。

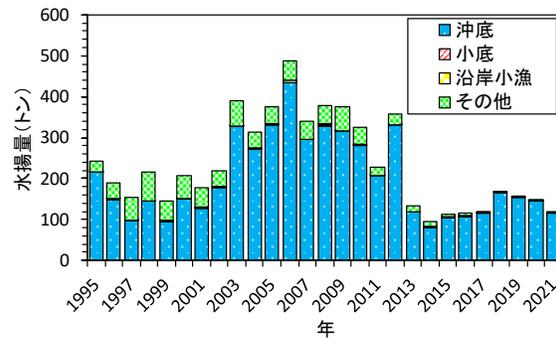
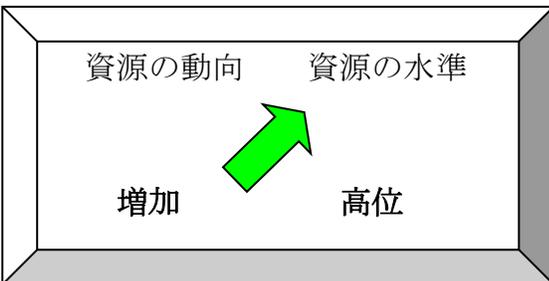


図2 宮城県におけるキチジの水揚量の推移。



参考文献

1) 金森由妃・森川英祐・成松庸二・富樫博幸・鈴木勇人・時岡駿・三澤遼・永尾次郎・山本佑樹(2022) 令和3(2021)年度キチジ太平洋北部系群の資源評価. 東京, 36pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202140.pdf>.

キアンコウ (*Lophius litulon*)



生態

- ①寿命：雌は 23.6 歳，雄は 19.9 歳。
- ②成熟：仙台湾における最小成熟体長は雌で 59.2cm，雄で 33.9cm。雌のほうが大型になる。
- ③産卵期：仙台湾周辺では 5～7 月。
- ④分布：北海道以南の沿岸各地，中国や朝鮮半島の沿岸，黄海・東シナ海に分布する。関東地方以北の太平洋岸では，青森県～千葉県沿岸に分布し，水深 30～400m の大陸棚～陸棚斜面に分布する。
- ⑤生態：魚類やイカ類を補食する。

主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網と小型底びき網による漁獲が多い。主漁期は沖底の休漁期を除いた 9 月～翌年 6 月である。

資源動向と水準

キアンコウの水揚量は，1996 年～2004 年までは 300 トン前後の中位～高位水準で推移し，2007 年～2013 年までは 200 トン以下の低位水準で推移した(図 1)。2014 年以降増加し，近年は中位水準となっている。2021 年は 365 トンであった。

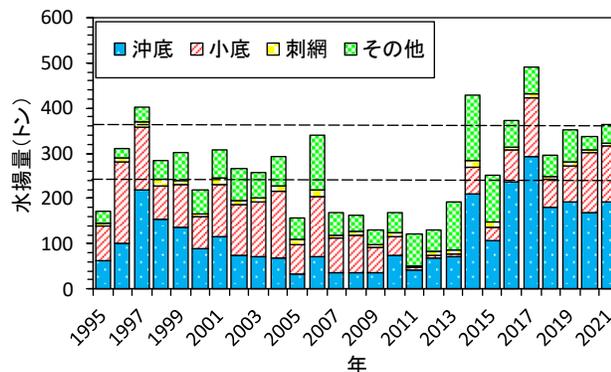
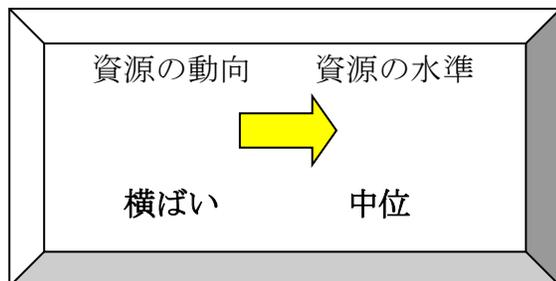


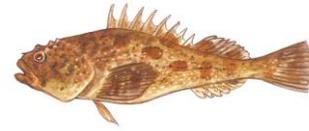
図 1 宮城県におけるキアンコウの水揚量の推移。上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

- 1) 時岡駿・成松庸二・富樫博幸・鈴木勇人・森川英祐・三澤遼・金森由妃・永尾次郎 (2022) 令和3 (2021) 年度キアンコウ太平洋北部系群の資源評価. 東京, 27pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202136.pdf>.
- 2) 小坂昌也 (1966) キアンコウの食生活. 東海大学海洋学部紀要, 1, 51-71.
- 3) 竹谷裕平・高津哲也・山中智之・柴田泰宙・中屋光裕 (2017) 青森県周辺海域におけるキアンコウの背鰭第一棘による年齢査定法の検証. 日水誌, 83, 9-17.

ケムシカジカ (*Evynnis japonica*)



生態

- ① 寿命：不明。
- ② 成熟：3月から5月が索餌盛期で、9月頃まで索餌期が続く。秋季から冬季には成熟、産卵期に向かう。
- ③ 産卵期：11月から12月。
- ④ 分布：東北地方および石川県以北の沿岸，黄海，日本海北部，オホーツク海，ベーリング海など北太平洋に広く分布する。
- ⑤ 生態：イカナゴ，ギンポ類，エゾイソアイナメ，クサウオ，キシエビ特にイカナゴが重要な餌生物である。イカナゴが夏眠に入ると，捕食できなくなり，キシエビがこれに替わる餌生物となる。

主な漁業と漁期

主に底曳網，刺網により漁獲される。

資源動向と水準

ケムシカジカの水揚量は，2002年に100トン以上水揚量を示したが，2011年以降は30トン以下の低位水準で推移していた。2021年は減少し3トンであった。

直近5ヶ年の水揚動向から，資源動向，水準は減少，低位と判断された。

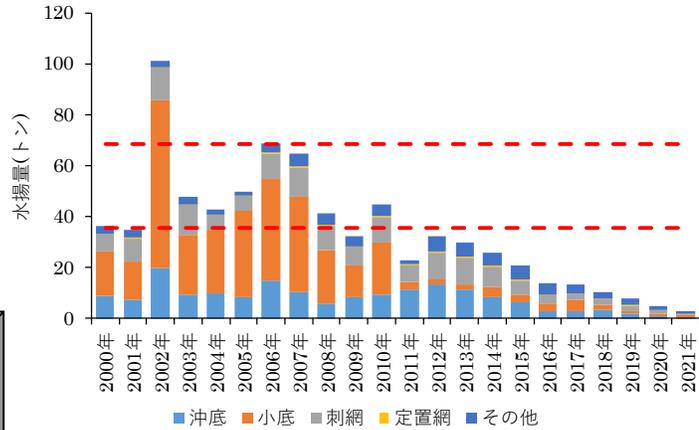
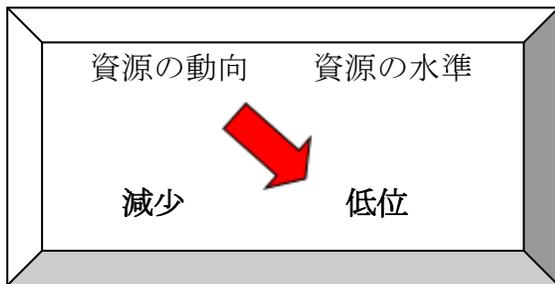
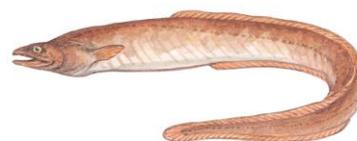


図1 宮城県におけるケムシカジカの水揚量の推移
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す

参考文献

1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 135-138.

イラコアナゴ (*Synphobranchus kaupii*)



生態

- ①成長：雄のほうが成長は早いものの雌がより大型化し、最大肛門前長は雄で 20 cm, 雌で 24 cm。
- ②成熟・産卵：雄は 4 歳，雌は 5 歳から成熟するが，東北地方太平洋岸では産卵間近の個体は観察されていない。
- ④分布：東北海域では水深 500～700 m に多く分布する。
- ⑤生態：ハダカイワシ類やイトヒキダラを捕食する。

主な漁業と漁期

本県ではほぼ沖合底びき網によっても漁獲される。漁期は沖底の休漁期（7 月～8 月）を除いて周年漁獲される。マアナゴの廉価品として利用される。全国的なマアナゴの漁獲量の減少により，本種への需要が高まっており，近年単価が上昇傾向にある。

資源動向と水準

イラコアナゴの水揚量は，1990 年代後半から 2003 年までは 1 千トン未満で推移していたが，2004 年から急増し，2007 年にピークの 4,037 トンとなった。その後減少傾向となり，2021 年は 376 トンとなった。資源の水準・動向は低位水準で横ばい傾向と判断される。

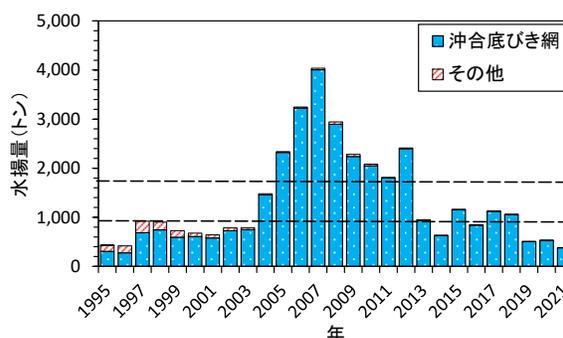
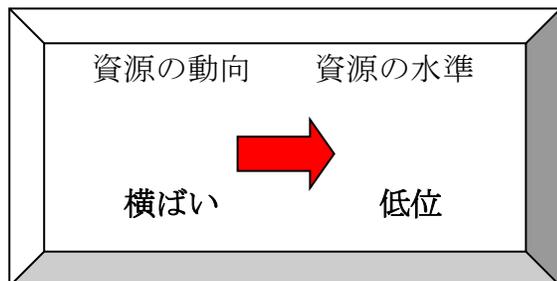
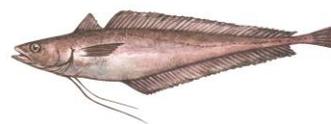


図 1 宮城県におけるイラコアナゴの水揚量の推移。

参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・青森県産業技術センター水産総合研究所・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産資源研究所・福島県水産海洋研究センター（2021）イラコアナゴ.令和 2（2020）年度資源評価調査報告書.水産庁・水産研究・教育機構，東京，6 pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/report/202005.pdf>
- 2) 渡邊一仁（2014）宮城県で漁獲されるアナゴ類について. 宮城水産研報告 14, 35-40.

イトヒキダラ (*Laemonema longipes*)

生態

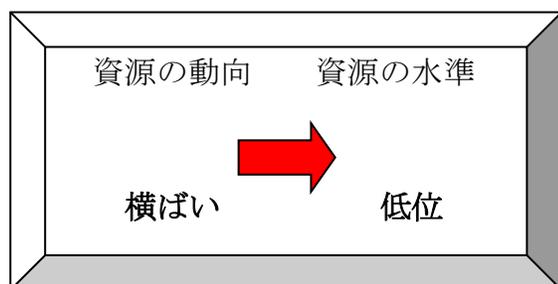
- ①寿命：雄で18歳，雌で24歳。
- ②成熟・産卵：2～4月を中心に関東・東北地方南部の太平洋沿岸から東方の外洋域（黒潮～黒潮続流域）で産卵する。
- ④分布：駿河湾から東北地方太平洋沖・北海道太平洋沿岸を経て，オホーツク海およびベーリング海西部までの陸棚斜面域（水深約300～1,500 m）に分布する。宮城県～茨城県沖は稚魚の成育場として、重要な役割を果たしていることが示唆されている。
- ⑤生態：オキアミ類やカイアシ類などの甲殻類、ヤムシ類、ハダカイワシ科魚類を主に捕食する。

主な漁業と漁期

本県ではほぼ沖合底びき網によっても漁獲される。漁期は沖底の休漁期（7月～8月）を除いて周年漁獲される。すり身の原料として利用される。

資源動向と水準

イトヒキダラの水揚量は，震災前の2009年までは6千トン～20万トン台で推移していたが，震災後は2017年に減少傾向で推移している。2011年以降の水揚量は117～1,204トンの低水準で推移しているが，これは震災ですり身の水産加工場が被災したことでイトヒキダラへの需要が減少し，沖底が積極的に獲りに行っていないことが影響している。資源の水準・動向は資源評価結果から低位で横ばい。



参考文献

- 1) 鈴木勇人・成松庸二・富樫博幸・森川英祐・時岡 駿・三澤 遼・金森由妃・永尾次郎（2022）令和3（2021）年度イトヒキダラ太平洋系群の資源評価.東京，22pp，
<http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202129.pdf>

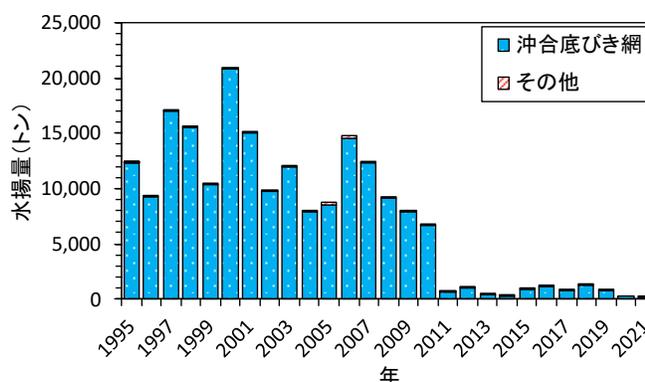


図1 宮城県におけるイトヒキダラの水揚量の推移。

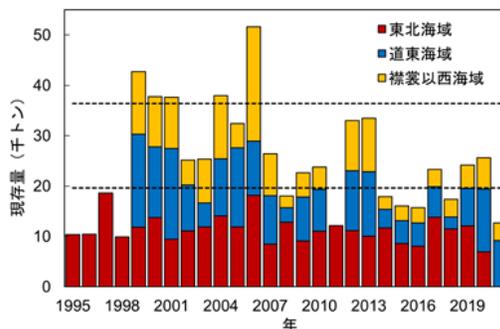
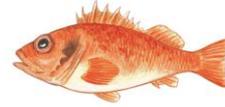


図2 イトヒキダラ太平洋系群の現存量の経年変化。破線は高中位と中低位水準の境界を示す。

ユメカサゴ (*Helicolenus hilgendorfi*)

生態

- ①寿命：明らかにされていないが、益子ら（2016）により 10 歳魚が確認されている。
- ②成熟：1 歳で 10.6cm，2 歳で 14.9cm，3 歳で 18.8cm，4 歳で 22.0cm ほどになるとされている。茨城県沖では，全長 25cm を超えるような比較的大型の個体でも生殖腺はほとんど発達していない。宮城県で再生産が行われているかどうかは不明である。
- ③産卵期：仔稚魚の採集例や卵巣卵の発育状況から，1～3 月頃とされている。
- ④分布：青森県～薩摩半島の太平洋沿岸，伊豆諸島，秋田県，山形県，富山県，若狭湾～九州北西岸の日本海沿岸，東シナ海大陸縁辺域に分布する。
- ⑤生態：ハダカイワシ類などの魚類，ホタルイカ類などの頭足類およびアミ，オキアミ類，コシオリエビ類やサクラエビ類などの甲殻類の捕食が確認されている。

主な漁業と漁期

主に底曳網で漁獲される。1995～2008 年では全体の漁獲量に占める小型底曳網による漁獲量の割合が 26～72% と高かったが，その後低下した。2009 年以降は沖合底曳網の割合が 70% 以上になっており，2020 年には 90% となった。宮城県における主漁期は 9 月～11 月頃である。

資源動向と水準

宮城県と茨城県の 2000 年～2020 年の漁獲量を用いて判断すると，水準は高位，動向は増加となっている。本県の水揚量は 2009 年～2010 年にかけて一時的な増加傾向を示したが，その後は減少傾向で推移した。しかし，2017 年以降増加傾向で推移し，2021 年の水揚量は 65 トンとなった。

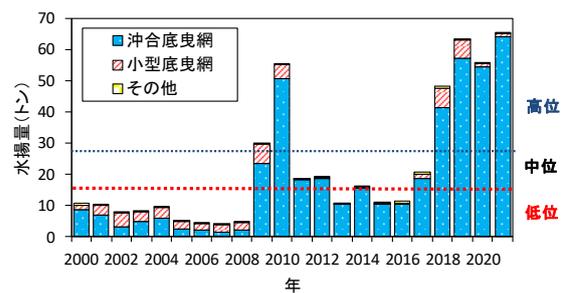
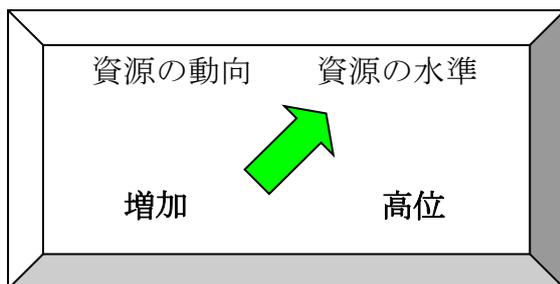
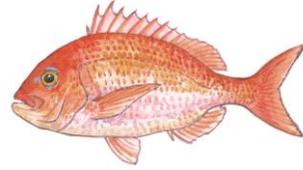


図1 宮城県におけるユメカサゴの水揚量の推移

参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・青森県産業技術センター水産総合研究所・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産海洋研究センター・茨城県水産試験場 (2022) ユメカサゴ太平洋北部 (青森～茨城).令和3 (2021) 年度資源評価調査報告書. 水産庁・水産研究・教育機構，東京，1-2pp，
<http://abchan.fra.go.jp/digests2021/report/2021140.pdf>
- 2) 益子剛・百成渉・片山知史 (2016) 茨城県沖で漁獲されるユメカサゴについて (II)，東北底魚研究，**36**，11-16.

マダイ (*Pagrus major*)

生態

- ① 寿命：普通 25 歳，稀に 35 歳とされるが，神奈川水試の飼育記録では 30 歳以上
- ② 成熟：産卵場へ成魚が来遊する時の水温は 14℃前後が多く，この水温が出現する時期は海域によって異なる。南方の海域ほど早く，北方では遅い傾向がある。
- ③ 産卵期：生息域の水温が 14～15℃に上昇すると産卵が始り，21～23℃になると産卵を停止する。
- ④ 分布：北海道東部・北部や琉球列島を除く日本列島周辺の沿岸域，朝鮮半島南部，東シナ海，南シナ海，台湾に分布する。日本沿岸では黒潮および対馬暖流の沿岸域を中心に分布し，特に大陸棚が発達した東シナ海やほぼ全域が浅海域の瀬戸内海で最も多く，大陸棚が局所的に広がる日本海西部でも多い。大陸棚が未発達な太平洋や日本海北部沿岸域では少ない。
- ⑤ 生態：当歳魚の餌料は主にアミ類，ヨコエビ類，多毛類等で，1 歳魚以上ではエビ類，カニ類，シャコ類などの甲殻類，ヒトデ類，魚類等の大型の底生生物が主体となる。

主な漁業と漁期

主に底曳網，刺網，延網，一本釣り，定置網により漁獲される。

資源動向と水準

マダイの水揚量は，2013 年に 400 トンを超えたが，2016 年以降は 200 トン前後の中位水準で推移した。

直近 5 ヶ年の水揚動向から，資源動向，水準は横ばい，中位と判断された。

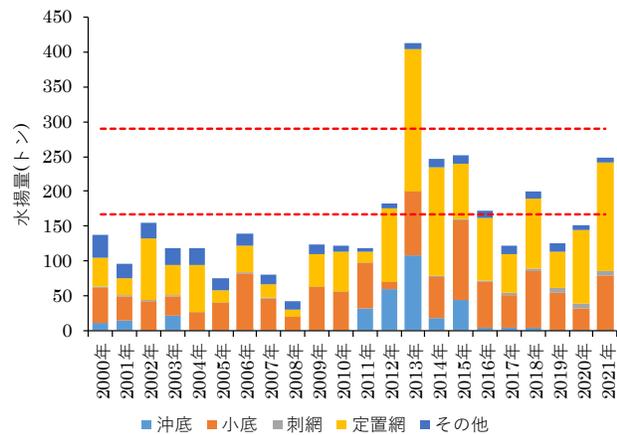
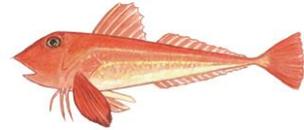


図1 宮城県におけるマダイの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界
中位と低位の境界を表す

参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 71-75.

カナガシラ (*Lepidotrigla microptera*)



生態

- ①寿命：宮城県海域のカナガシラの最高年齢は雄が11歳，雌が12歳。
- ②成熟：成熟年齢は3歳で，成熟とともに成長が停滞する。雌のほうが大きくなる。
- ③産卵期：宮城県海域や陸奥湾では産卵盛期は6月から8月。
- ④分布：北海道南部以南から東シナ海まで分布する。
- ⑤生態：餌生物の大部分はマルソコシラエビ，ヨコエビ類，エビ・カニ類。

主な漁業と漁期

主に底曳網，刺網，定置網により漁獲される。

資源動向と水準

カナガシラの水揚量は，2000年代前半は40トン以下の低位水準で推移していた。2012年以降水揚量が増加し，2017年は300トンを超える高位水準を示した。2021年は減少し120トン台であった。

直近5ヶ年の水揚動向から，資源動向，水準は減少，中位と判断された。

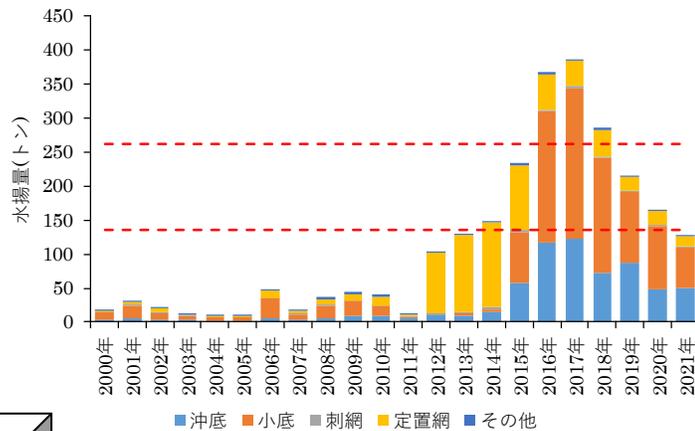
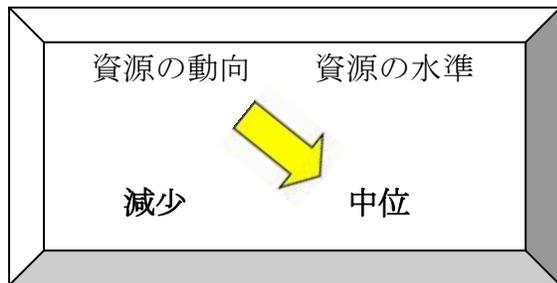


図1 宮城県におけるカナガシラの水揚量の推移

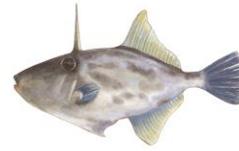
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す



参考文献

- 1) 藤岡崇・高橋豊美・前田辰昭・中谷敏邦・松島寛治 (1990) 陸奥湾におけるカナガシラ成魚の生活年周期と分布. 日水誌, 56, 1553-1560.
- 2) 岡村悠梨子・片山知史・奥野雄貴・杨 曦彤・増田義男 (2021) 宮城県沿岸におけるカナガシラの水揚げ量の増加と生活史特性. 水産増殖, 69, 177-184.

ウマヅラハギ



(*Thamnaconus modestus*)

生態

- ①寿命：10年。
- ②成熟：2歳から成熟個体が出現し、4歳以上で90%以上が成熟する。
- ③産卵期：我が国沿岸各地では夏季に産卵する。
- ④分布：我が国周辺、東シナ海、黄海に分布する。
- ⑤生態：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類など幅広い食性を示す。

主な漁業と漁期

本県では地方名「ギハ」と呼ばれ、主に定置網によっても漁獲される。主な漁期は4月～5月頃と11月～12月頃の年2回ピークがみられる。

資源動向と水準

ウマヅラハギの水揚量は、1995～2002年までは80トン～170トン台の中位～高位水準で比較的安定して推移していた。2003年～2016年までは年によって異なるものの、2006年と2010年を除いて中低位水準で推移した。2017年以降増加傾向となり、2021年の水揚量は125トンである。

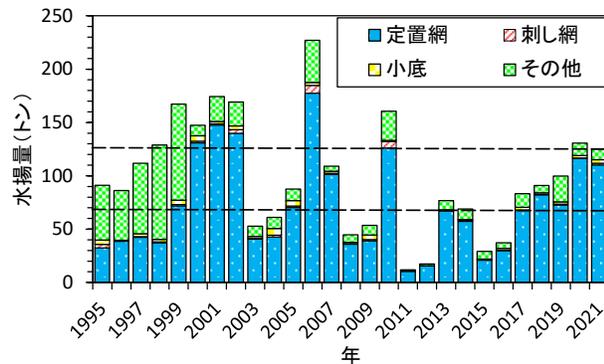
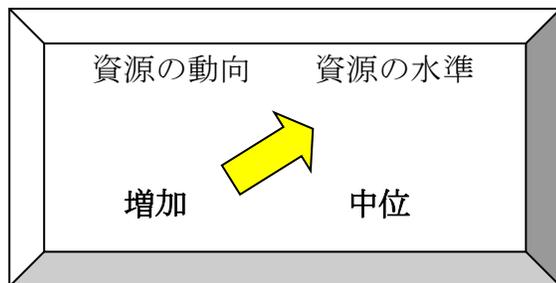


図1 宮城県におけるウマヅラハギの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す



参考文献

- 1) 五味伸太郎・酒井猛 (2022) 令和3 (2021) 年度ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源評価. 我が国周辺水域の漁業資源評価, 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 22pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202172.pdf>.

ヒラメ (*Paralichthys olivaceus*)



生態

- ①分布：日本沿岸のほぼ全域。東北海域では主に水深 30～150m 以浅の陸棚域に分布し、産卵期には水深 20～50m 以浅の粗砂及び砂礫地帯に移動。本県沿岸は太平洋北部系群に分類。
- ②成熟・産卵：東北海域での成熟サイズ及び年齢は、雄では全長 35cm で 2 歳以上、雌では全長 44cm で 3 歳以上。仙台湾から常磐海区では 5～9 月が産卵期。
- ③成長及び寿命：2 歳以上で雌が雄を上回り、2 歳の場合雄で全長約 35cm、雌で 44cm。雌で 12 歳、雄で 10 歳が捕獲されている。
- ④食性：着底後の稚魚はアミ類、全長 10cm 以上でカタクチイワシ、マイワシ、イカナゴなどの魚類を捕食。

主な漁業と漁期

小型底曳網及び刺し網による漁獲が多い。漁業は周年行われているが 6 月と 10 月頃に漁獲量が増加する。

資源動向と水準

ヒラメ太平洋北部系群の資源量は東日本大震災後急増し 2014 年には 1 万トンを超えたが、その後減少に転じ 2020 年は 6,308 トンと推定されている。

また、親魚量についても 2013 年に 8,255 トンと 1990 年以降最高を示したのち減少傾向を示し、2020 年は 5,249 トンであるが、水準としては高位水準を上回っているとされている。

本種は 1990 年代から盛んに種苗放流が行われている他、本県では資源管理措置として小型魚(牡鹿半島以北では 30cm 未満、仙台湾では 35cm 未満)の漁獲制限を設けている。

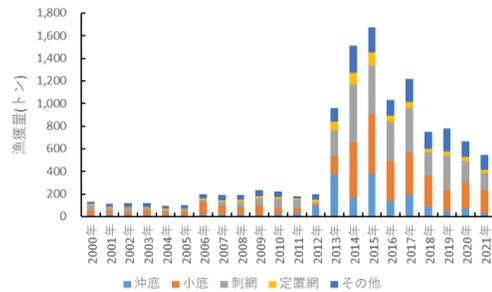
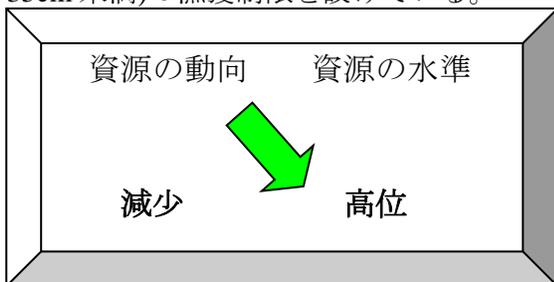


図 1 宮城県におけるヒラメの漁法別水揚量の推移

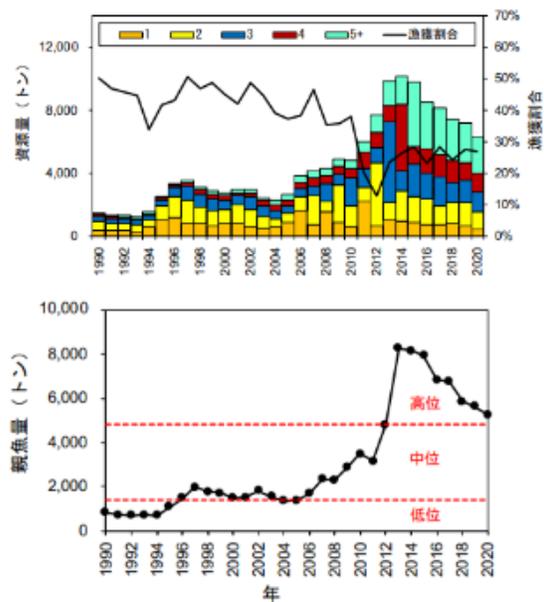


図 2 ヒラメ太平洋北部系群の資源量：上及び親魚量水準：下(令和 3 年度ヒラメ太平洋北部系群の資源評価報告書より)

参考文献

- 1) Temperature influence on larval growth and metamorphosis of the Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in the laboratory. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish., 52, 977-982
- 2) 北川大二, 石戸芳男, 桜井泰憲, 福永辰廣(1994)三陸北部沿岸におけるヒラメの年齢, 成長, 成熟. 東北水研研報, 56, 69-76
- 3) 水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター. 令和3(2021)年度ヒラメ太平洋北部系群の資源評価.
- 4) 宮城県(平成23年)宮城県資源管理指針

マコガレイ (*Pseudopleuronectes yokohamae*)

生態

- ①寿命：仙台湾では雌で12歳、雄で8歳とし解析が行われている。
- ②成熟：雄は全長20.0～21.9cmのおよそ2歳、雌は全長28.2cmのおよそ2歳で成熟する。
- ③産卵期：産卵期は12～翌1月で、1産卵期1回型の産卵様式である。
- ④分布：北海道から九州。
- ⑤生態：多毛類やイソギンチャク目の一種、二枚貝の水管、ラスバンマメガニを捕食する。

主な漁業と漁期

刺網と小型底曳網による漁獲が大部分を占める。主な漁期は産卵期の12～翌2月と、索時期かつヒラメの代替品として単価の高い5～7月。水揚量の8割は牡鹿半島以南の仙台湾で水揚げされている(図1)。

資源動向と水準

仙台湾の資源動向(図2)：VPAによる資源量推定結果(Mを雄0.31、雌0.21と仮定。Popeの近似式を仮定)より、1996～2004年の資源量は300トン程度で推移し、震災翌年以降、2014年に1600トン程度まで増加したが、それ以降減少に転じている。過去の資源量の平均値を指標とし、1歳の資源量が毎年更新する度に大きく変化するため、最新の2021年を除いて、現在の資源量水準は低位、最近5年間の資源動向から動向は減少傾向。

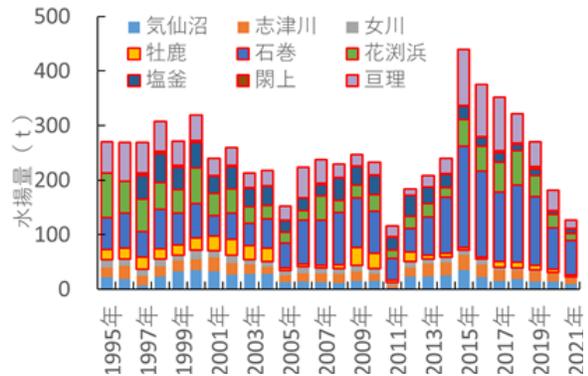
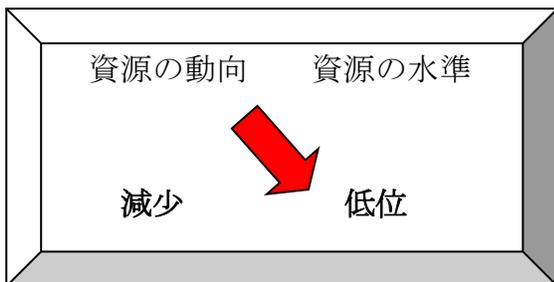


図1 宮城県におけるマコガレイの市場別水揚量の推移(出典：宮城県総合水産行政情報システム、市場帳票)、赤枠で囲ったものは仙台湾周辺の市場を示す。

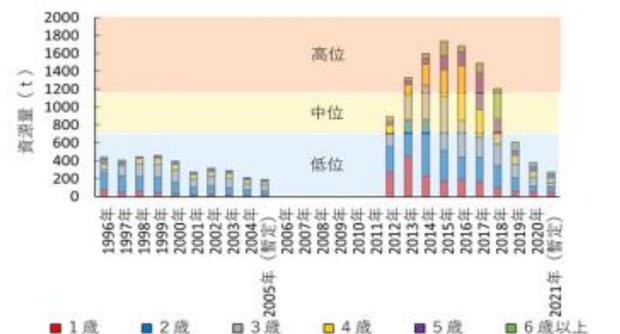


図2 仙台湾におけるマコガレイの資源量の推移

トピックス

2008年2月に資源回復計画を策定し、産卵場における保護区の設定（仙台湾）や、刺網による産卵期の休漁、目合制限、小型魚の保護（全長20cm、牡鹿半島以北）や産卵後親魚の再放流等に取り組んでいる。

参考文献

- 1) 大森蓮夫 (1974) 仙台湾における底魚の生産構造に関する研究 I. 日本水産学会誌, **40** (11), 1115-1126.
- 2) 菊地喜彦・小林徳光・永島宏・小林一郎・児玉純一・佐藤孝三 (1990) 仙台湾におけるマコガレイの分布について. 宮城県水産試験場研究報告, **13**, 30-42.
- 3) Hatanaka, M., and Iwahashi, S., (1952) Studies on the populations of the flatfishes in Sendai Bay III. The biology of *Limanda yokohamae* (Gunther). Tohoku journal of agricultural research, **3**(2), 303-309.
- 4) 佐伯光広・菊地喜彦 (2000) 宮城県沿岸域における異なる海域間で漁獲されたマコガレイの成長、産卵期及び遺伝的差異について. 宮城県水産研究開発センター研究報告, **16**, 61-70.
- 5) 佐藤羊三郎 (1972) マコガレイ（日出シロシタガレイ）の水槽内自然産卵について. 水産増殖, **19**, 183-186.
- 6) 高橋清孝・尾形政美・雁部総明・佐伯光広 (2006) 仙台湾におけるマコガレイ親魚の保護による資源管理. 宮城県水産研究報告, **6**, 21-26.

マガレイ (*Pseudopleuronectes herzensteini*)



生態

- ①分布・回遊：仙台湾南部 30 m 以深の粒度の粗い砂質での漁獲が多い。冬期は沿岸，秋期は沖合という季節的浅深移動をする（山廻邊 2007）。
- ②年齢・成長：von Bertalanffy の成長式から推定された雌雄別の計算全長より雌雄で成長差があり，雄は 6 歳で体長約 30cm，雌は 6 歳で体長約 40cm に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は 1～6 月と長期に及ぶが，最盛期は 3～4 月と考えられている（佐伯 2002）。
- ④被捕食関係：甲殻類や多毛類，魚類などさまざまな餌生物を餌として利用している。

主な漁業と漁期

2015 年沖合底曳網及び小型底曳網による漁獲が多いが，近年は小型底曳網の漁獲が大部分を占める。主な漁期は主な漁期は 9～11 月であるが，2019 年以降この時期の漁獲は減少傾向にある（図 1）。

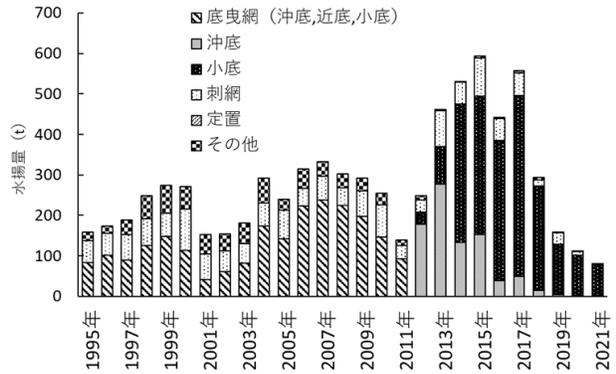


図 1 宮城県におけるマガレイの漁法別水揚量の推移 (出典: 宮城県総合水産行政情報システム, 市場帳票)。

資源動向と水準

仙台湾の資源動向 (図 2) : VPA による資源量推定結果 (M を雄 0.25, 雌 0.21 と仮定。Pope の近似式を仮定) より，震災翌年以降，2013 年に約 3,700 トン程度まで増加したが，それ以降減少に転じている。過去の資源量の平均値の±30%を指標として，1 歳の資源量が毎年更新する度に大きく変化するため，最新の 2020 年は暫定とし，現在の資源量水準は低位，最近 5 年間の資源動向から動向は減少傾向。

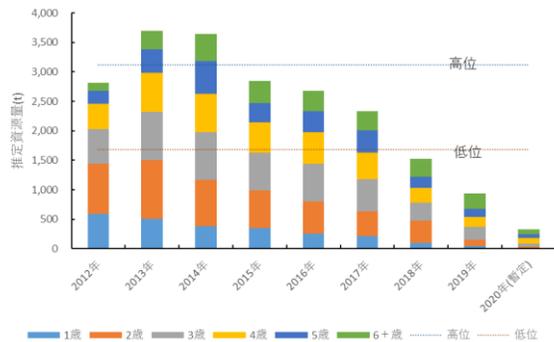
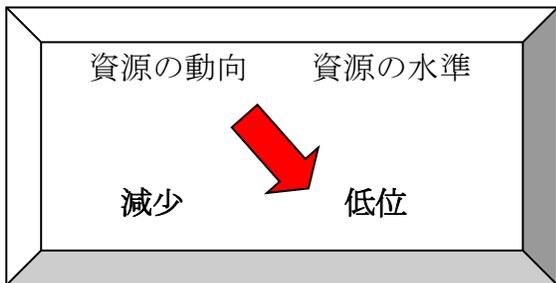


図 2 仙台湾におけるマガレイの資源尾数の推移



参考文献

- 1) 岡村悠梨子・鈴木貢治 (2020) 仙台湾におけるマガレイの資源量推定. 宮城県水産研究報告, 20, 1-7.
- 2) 佐伯光広 (2002) 宮城県におけるマガレイの資源生態と近年の資源動向. 東北底魚研究, 22, 34-36.
- 3) 山廻邊昭文 (2007) 福島県における近年のマガレイの漁獲と加入量変動. 福島県水産試験場研究報告, 14, 1-9.

ホシガレイ (*Verasper variegatus*)



生態

- ①分布・回遊：北海道以南の日本各地に生息する。水深 10m 以浅から水深 150m の砂底で漁獲される。
- ②年齢・成長：雌雄で成長差がみられ，最大全長は雄より雌の方が大きい。他の異体類と比べ成長が極めて早く，全長 60cm，6kg に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は概ね 12~2 月で，雄では 1 歳の秋から成熟，雌では 2 歳の秋から成熟が見られる。産卵場は，仙台湾においては水深 100~150m の海域と考えられている。
- ④食性：着底直後から甲殻類を専食する。

主な漁業と漁期

刺網，沖合底曳網，小型底曳網で漁獲される (図 1)。6 月から 7 月の初夏が例年漁獲のピークである。

資源動向と水準

本種は稚魚放流が行われており，震災後には漁獲が増加した。過去の漁獲量の平均値の±30%を指標とした漁獲動向としては，直近数年については減少傾向にあるが，漁獲水準としては中位と判断された。

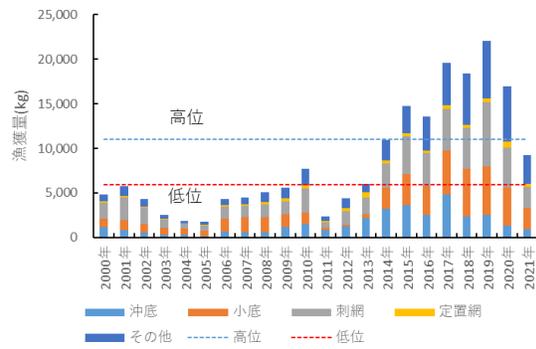
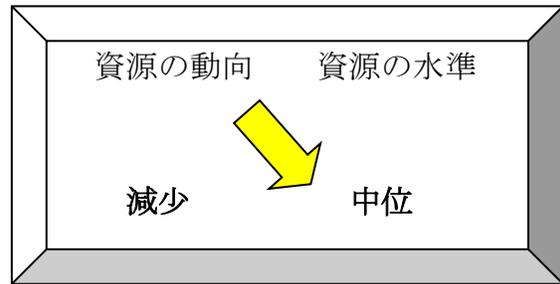


図 1 宮城県におけるホシガレイの漁法別水揚量の推移 (出典:宮城県総合水産行政情報システム)



参考文献

- 1) 根本芳春・藤田恒雄・渡邊昌人(1999)ホシガレイに関する研究-I. 福島水試研報, 8, 5-16
- 2) 島村信也・安岡真司・水野拓治・佐々木恵一・根本芳春(2007)ホシガレイに関する研究-II 漁業実態と福島県沿岸における生活史. 福島水試研報, 14, 69-90
- 3) 渡邊一仁(2011)宮城県におけるホシガレイの漁獲動向と放流効果. 東北底魚研究, 31, 105-112
- 4) 雁部総明(2014)VPA 解析結果からみたホシガレイの資源動向について. 東北底魚研究, 34, 31-37

ババガレイ (*Microstomus achne*)



生態

- ①分布:北海道全沿岸, 青森県〜対馬の日本か沿岸, 青森県〜千葉県外房の太平洋沿岸, 神奈川県三崎, 愛知県。生息水深 50~450m で, 200~350m で漁獲が多い。
- ②年齢・成長:東北太平洋沿岸部では, 雌雄ともに 2 歳で体調 16cm, 3 歳で 20cm, 4 歳で 23cm に達する。また最高齢は雄で 18 歳, 雌で 23 歳まで確認されている。
- ③性熟・産卵:東北太平洋岸の産卵期は 3~4 月で, 雌は体長 30cm で 20~80%が成熟する。
- ④食性:多毛類, 腔腸動物, 甲殻類。

主な漁業と漁期

ほとんどが沖合底曳網で漁獲される。漁獲量は 2~6 月に多い傾向にある。

資源動向と水準

他の異体類と類似し, 震災後に漁獲量が増加しており, 2014 年は 2000 年以降最大となる 409 トンを記録した。近年はやや減少したものの, 平均漁獲量を指標に漁獲水準は高位, 漁獲動向は横ばいと判断された。

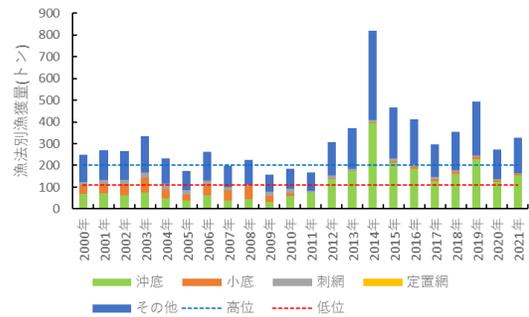
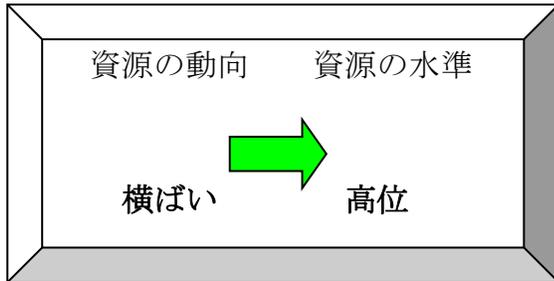


図 1 宮城県におけるババガレイの漁法別水揚量の推移

参考文献

- 1) 中坊徹次, 土居内龍(2013)カレイ科. pp. 1675-1683. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会.
- 2) 石戸芳男(1993)東北海区におけるババガレイ卵の分布. 東北水研研究報告, 55, 37-51.
- 3) 早乙女忠広(2011)福島沿岸におけるババガレイの漁場形成と底質の関係. 東北底魚研究, 31, 24-30
- 4) 谷瀬香保, 後藤友明(2020)東北太平洋沖ババガレイにおける年齢査定手法の確立. 東北底魚研究, 40, 12-15.

ヤリイカ (*Heterololigo bleekeri*)



生態

- ①寿命：1年。雄は雌に比べて大きくなり、雄の外套長は300mm以上に達するのに対し、雌の最大外套長は220mm程度である。宮城県で漁獲されたヤリイカの成長式は以下のとおり。
雄: $M.L.=312/(1+e^{4.87-0.0294t})$, 雌: $M.L.=225/(1+e^{4.68-0.0317t})$
- ②成熟：12月以降成熟個体が見られるようになる。
- ③産卵期：1月から8月の長期に及び、主産卵時期は2月から5月。本県沿岸でも産卵する。
- ④分布：ヤリイカ太平洋系群は、岩手県以南の本州太平洋岸沖、四国および九州沿岸に分布する。太平洋北部のヤリイカは、宮城県～千葉県までの南北方向へ移動回遊していることが示唆されている。
- ⑤生態：外套長50mmまではカイアシ類、60～150mmまではカイアシ類に加えてオキアミ類及びアミ類、170mm前後からは魚類を捕食する。

主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網主体に、小型底びき網、定置網等によって漁獲される。主漁期は10月～3月。

資源動向と水準

ヤリイカ太平洋系群の漁獲量は2012～2014年に急増し、4,000トンを超えた。2015年と2016年はやや減少したが、2017年以降は再び3,000トンを超え、2020年の漁獲量は3,870トンとなった。北部海域における標準化CPUEは2011年まで横ばいで推移した後、2011年から2013年にかけて増加した。その後標準化CPUEは全年平均値と同程度まで低下したものの、2017年以降は再び上昇した。2020年の標準化CPUEは平均比2.41倍と高い値を示したことから、資源水準は高位、動向は増加と判断される。

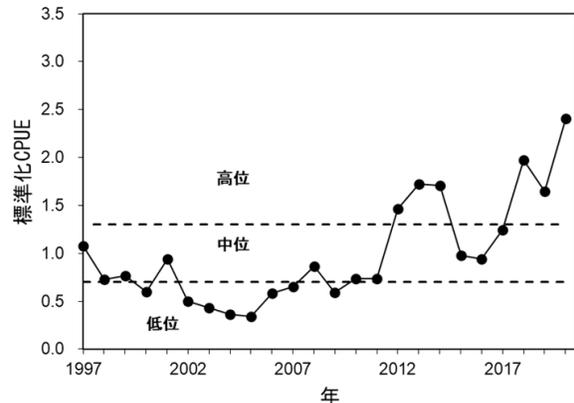
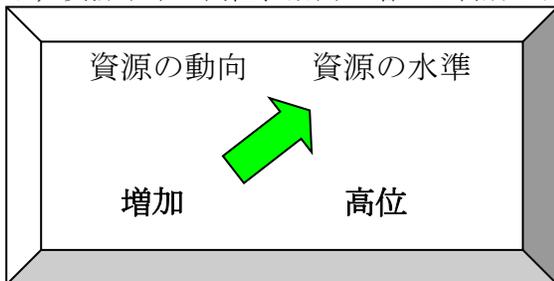


図1 ヤリイカ太平洋系群の北部海域における標準化CPUEと水準区分。標準化CPUEは平均値が1となるよう規格化した値。破線は資源水準の境界を示す。(時岡ら(2022)参照)



宮城県におけるヤリイカの水揚量は、年変動があるが、2017年以降は1,500トンを超える高水準で推移し、2021年の水揚量は1,551トンであった。近年は7月頃から定置網や小型底びき網で小型のヤリイカが多獲されるようになるなど、仙台湾周辺では、鹿島灘から北上する従来からの来遊資源に加えて、近年は仙台湾周辺海域でふ化した稚仔が新規加入することで、資源が急増し高水準を維持するようになったと推定されている。

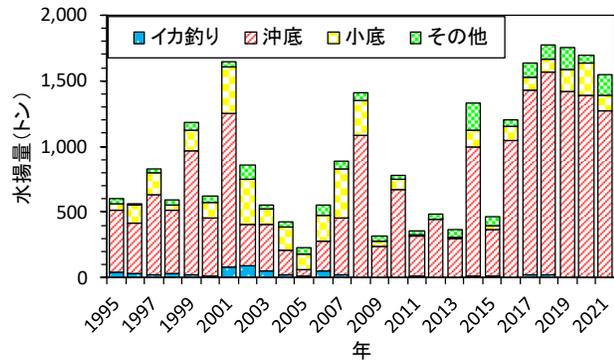


図2 宮城県におけるヤリイカの水揚量の推移。

トピックス

本県のヤリイカ盛漁期（11月～翌年1月）における漁獲量は、9月の仙台湾（38°23'N, 141°33'E）の底水温及び10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）を使い、以下の式で予測が可能となっている。

$$Y = 0.97X_1 + 100.66X_2 - 1362.64 \quad (n=24, r=0.83, \text{補正 } r^2=0.65, p<0.01 (X_1), p<0.01 (X_2))$$

Y；ヤリイカ盛漁期（11月～1月）の漁獲量（トン）

X₁；10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）

X₂；9月における仙台湾 St.12 の底層水温（℃）

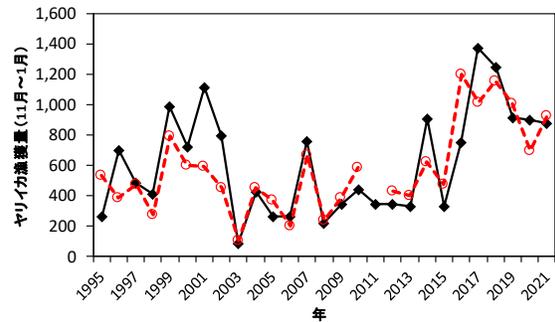


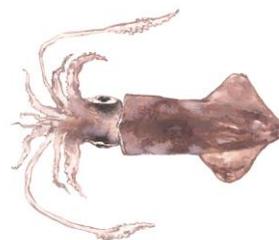
図3 1995年～2021年漁期におけるヤリイカ盛漁期の漁獲量（黒実線）と重回帰分析から得られた計算値（赤色点線）の関係。

参考文献

- 1) 時岡駿・成松庸二・富樫博幸・鈴木勇人・森川英祐・三澤遼・金森由妃・永尾次郎（2022）令和3（2021）年度ヤリイカ太平洋系群の資源評価.東京，23pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202180.pdf>.
- 2) 増田義男・小野寺恵一・片山知史（2017）宮城県沿岸域で漁獲されたヤリイカの日齢と成長. 水産海洋研究，81，36-42.
- 3) 服部 努・柴田泰宙・成松庸二・伊藤正木（2015）宮城県から千葉県沖におけるヤリイカの移動回遊経路の推定. 東北底魚研究，35，170-175.
- 4) 増田義男（2015a）宮城県沿岸で漁獲されたヤリイカの孵化時期の推定. 東北底魚研究，35，138-145.
- 5) 増田義男（2015b）宮城県におけるヤリイカの漁獲動向. 東北底魚研究，35，146-154.
- 6) 高橋清孝（2022）海水温上昇による仙台湾と三陸沿岸の魚種交替. JAFIC Technical Review No.1, 12pp.

ジンドウイカ

(Lololus (Nipponloligo) japonica)



生態

- ①寿命：1年。
- ②成熟：冬から夏にかけて成熟する。
- ③産卵期：2月以降で、主産卵期は本種が浅所へ接岸する5月～7月。
- ④分布：北海道南部以南の琉球列島を除く日本各地、黄海・東シナ海～南シナ海（ベトナム）の浅海域に分布する。本県では小型底びき網の重要な漁獲対象種である。
- ⑤生態：小規模な深浅回遊を行い、9月～2月に沖合へ離岸し、4月以降浅い海域へ接岸する。

主な漁業と漁期

本県では地方名「ヒイカ」や「小イカ」と呼ばれ、小型底びき網主体に沖合底びき網、定置網等によっても漁獲される。周年漁獲されるが、主な漁期は10月～3月頃。

資源動向と水準

ジンドウイカの水揚量は、2016年までは300トン～700トン台の中位～高位水準で比較的安定して推移していたが、2017年に減少傾向で推移している。2021年の水揚量は240トンである。

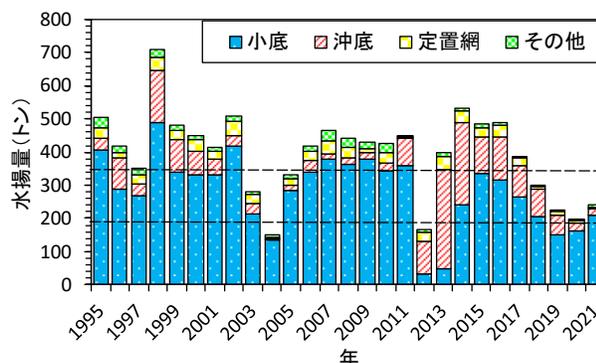
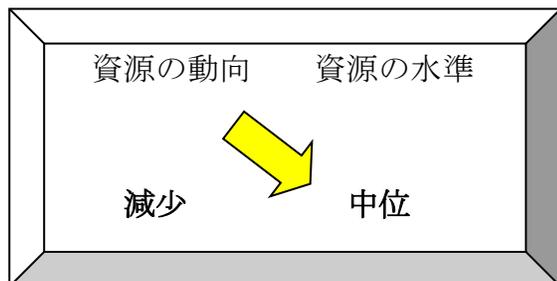


図1 宮城県におけるジンドウイカの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す



参考文献

- 1) 武智 博 (1989) 仙台湾に分布するジンドウイカの資源構造. 東北大学博士論文. 175 pp.
- 2) 海藤 齊・永井雄幸・福田敏光・中井純子 (1999) 石狩湾におけるジンドウイカの産卵生態. 平成10年度イカ類資源研究会議報、88-95.
- 3) 増田義男・岡村悠梨子 (2022) 仙台湾におけるジンドウイカの成長と成熟. 東北底魚研究, 42, (印刷中).

マダコ (*Octopus sinensis*)

生態

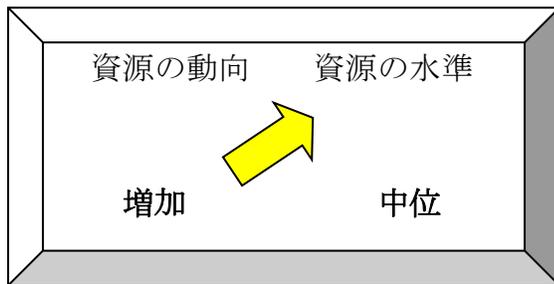
- ① 寿命：～2歳
- ② 成熟：体重 500 g 程度
- ③ 産卵期：3～6月、9～10月
- ④ 分布：東アジア沿海の温帯・熱帯海域に広く分布する
- ⑤ 生態：主産卵場は鹿島灘周辺と考えられ、ここで発生した幼体が北上暖水により福島から三陸沿岸へ運ばれ、冬までに体重 1 kg 以上に成長し、11 から 12 月になると南下して産卵場へ向かうとされている。一部のマダコは牡鹿半島周辺や三陸沿岸に残留し産卵しているとの推測もあるが、確かめられていない。

主な漁業と漁期

主に 10～12 月に沿岸小漁（カゴ漁）などにより漁獲されている。

資源動向と水準

2017 年から漁獲量が増加しており、近年の北上暖水の強勢を反映しているものと考えられる。



マダコの漁獲量（キロ）

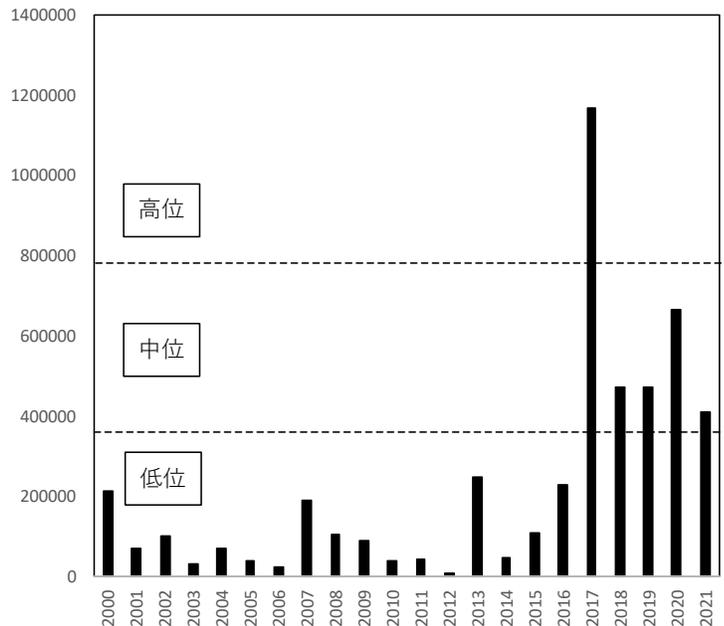


図1 宮城県におけるマダコの漁獲量の推移。高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした

参考文献

- 1) Leporati SC, Semmens JM, Pecl GT (2008). Determining the age and growth of wild octopus using stylet increment analysis. *Marine Ecology Progress Series*, 367, 213-222.
- 2) 上田拓 (2010) 関門地区におけるマダコの成熟ならびに成長. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 20, 1-9.
- 3) 秋元義正, 佐藤照 (1980) マダコの生態-1 漁獲量の変動と移動. 福島水試研報, 6, 11-19.
- 4) 高橋 清孝 (2022) 海水温上昇による仙台湾と三陸沿岸の魚種交替. *JAFIC Technical Review* No. 1, 1-12

ミズダコ (*Enteroctopus dofleini*)

生態

- ① 寿命：不明（年齢形質未確定）
- ② 成熟：雌 8.5 kg、雌 9.8 kg（津軽海峡）
- ③ 産卵期：3～5月（津軽海峡）、5～7月（北海道）
- ④ 分布：東北地方以北
- ⑤ 生態：大型の寒冷性のタコ。漁獲される個体の多くは未成年体である。

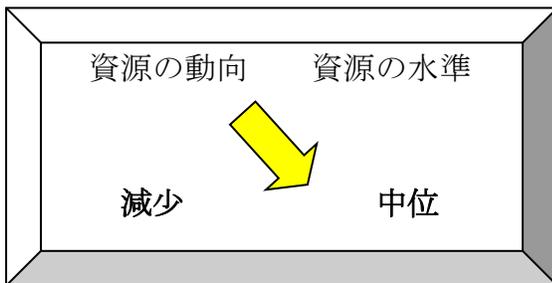


主な漁業と漁期

周年沿岸小漁（カゴ漁）などにより漁獲されているが、6～7月が水揚げが多い。

資源動向と水準

震災後の水揚量は減少傾向にある。なお、水揚量は、ミズダコとヤナギダコの合算値となっている。



ミズダコの漁獲量（キロ）

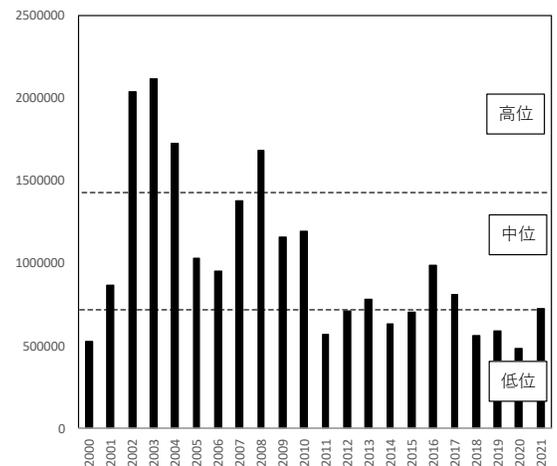


図1 宮城県におけるミズダコの水揚量の推移。
高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした

参考文献

- 1) 野呂恭成, 桜井泰憲 (2014) 津軽海峡周辺海域におけるミズダコの性成熟と生殖周期. 水産増殖, 62 巻, 3 号, p. 279-287

ガザミ (*Evynnis japonica*)



生態

- ① 寿命：2～3 歳
- ② 成熟：ガザミは雌雄共生体型第 12 令または第 13 令で成熟し，雌では次の脱皮で腹部の形が三角形から丸味を帯びた形に変化し(成熟脱皮)交尾する。
- ③ 産卵期：産卵期は抱卵個体の出現状況でみると 4～9 月。
- ④ 分布：青森県以南の日本沿岸各地，台湾，中国，朝鮮半島(日本の主な産地は東京湾，三河湾，伊勢湾，瀬戸内海，有明海)。
- ⑤ 生態：巻貝，二枚貝，多毛類，小型甲殻類等の底生生物を捕食し，夜間餌を求めて砂泥域から泳ぎ出て，はさみ脚で餌を捕らえる。

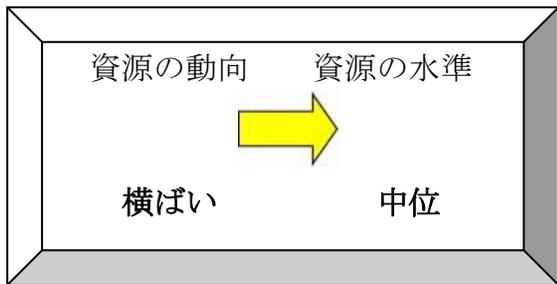
主な漁業と漁期

主に底曳網，刺網により漁獲される。

資源動向と水準

ガザミの水揚量は，2015 年に 500 トン以上を示し，その後 600～700 トン台で推移したが，2019 年以降は 300 トン前後の中位水準で推移していた。

直近 5 ヶ年の水揚動向から，資源動向，水準は横ばい，中位と判断された。



トピックス

宮城県においては 1960 年以降の漁獲量は年間数トン程度であった。1978 年～1999 年には種苗放流が行われ，最大で年間 270 万匹の稚ガニが放流されたが，この期間にも漁獲量の顕著な増加は見られなかった。しかし，東日本大震災後の 2012 年頃から仙台湾における漁獲量が急増し，2015 年には宮城県の漁獲量が全国 1 位となった。

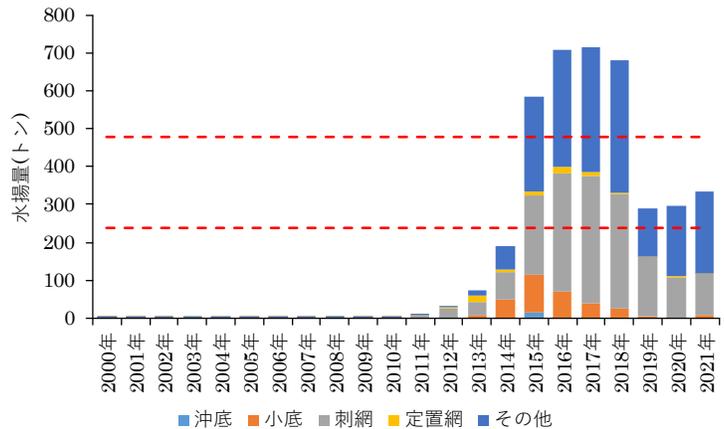


図1 宮城県におけるガザミの水揚量の推移
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す

参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 193-196.
- 2) 矢倉浅黄 (2021) 仙台湾におけるガザミの漁獲と生態について. 宮城水産研報, 21, 10-14.

アカガイ (*Microstomus achne*)

生態

- ①分布：内湾及び沿岸浅海域の泥域に生息する二枚貝で、仙台湾では水深 20～30m のシルト帯に生息する。
- ②年齢・成長：殻長は 2 令で 40mm，4 令で 59.6mm，6 令で 73.4mm，10 令で 90.0mm と推定される。
- ③成熟・産卵：2 令で一部が成熟するが，若齢貝では雄の割合が高く 6 令で雌雄比が 1 となる。
- ④食性：無水管の濾過食性で，微細藻類や有機懸濁物を摂取する。

主な漁業と漁期

貝桁網により漁獲される。7，8 月を除き周年漁獲される。

資源動向と水準

2001 年以降の漁獲量の平均値を基準に求めた漁獲水準としては 2021 年は中位水準。ただし，本種はまひ性貝毒が基準値を超えた場合出荷自主規制措置がとられ，また，種として長期間毒成分を保持することから，年によって漁期が著しく短いことがあり，必ずしも漁獲動向が資源動向を反映しているとは言えない。このことからまひ性貝毒により長期間出荷自主規制措置が執られた 2018 年や 2020 年を除き動向としては横ばいと判断した。

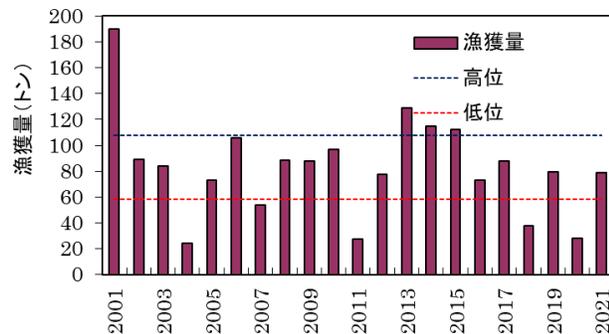
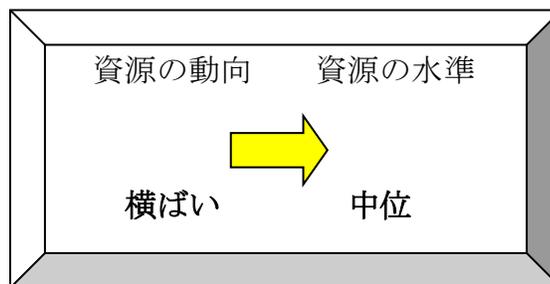


図1 宮城県におけるアカガイの漁獲状況



参考文献

- 1) 吉良哲郎(1972)原色日本貝類図鑑. 保育社. 東京.
- 2) 渡邊一仁, 田邊徹, 鈴木矩晃(2012)仙台湾アカガイの資源状況と管理手法の検討. 宮城水産研報. 12. 13-21.
- 3) 佐々木良(1997)仙台湾におけるアカガイ加入初期過程に関する再検討. 宮城水開セ研報. 15. 69-79.

タチウオ (*Trichiurus japonicus*)



生態

- ①寿命：8歳程度。
- ②成熟：1歳で40%，2歳で80%以上，3歳で100%が成熟する。
- ③産卵期：春と秋に分かれる。近年仙台湾では7月～10月に産卵がみられる。
- ④分布：北海道以南の本州沿岸から東シナ海，朝鮮半島西岸および黄海・渤海に分布し，日本各地の沿岸で広く分布する。近年西日本では減少しているが，静岡県以東では増加しており，海水温上昇によりタチウオの分布が北偏傾向にある。
- ⑤生態：肛門前長が200mm以下の個体は小型甲殻類，中大型魚は小型魚類を補食する。成長に伴い魚食性が強くなる。共食いも見られる。

主な漁業と漁期

本県では定置網と小型底びき網による漁獲が多い。タチウオの来遊資源の増加に伴い，はえ縄等で狙う漁業者もいる。主漁期は夏秋期で沿岸の表面水温が20℃前後になると来遊し，10℃を下回ると常磐海域以南へ南下する。

資源動向と水準

タチウオの水揚量は，1999年に300トンを超えたが，2014年までは100トン未満の低位水準であった。2015年以降増加し，2018年以降は100トンを超え，年々右肩上がり得水揚量が増加している。2021年は506トンと過去最高となった。

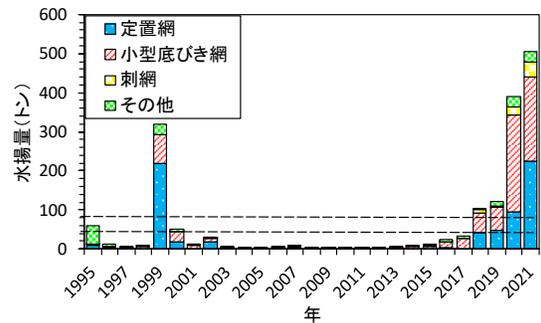
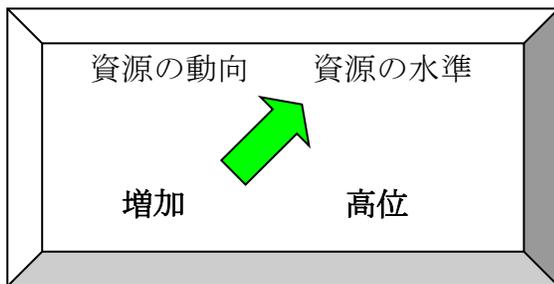
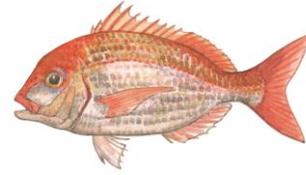


図1 宮城県におけるタチウオの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

- 1) 青沼佳方・五味伸太郎・増淵隆仁 (2022) 令和3 (2021) 年度タチウオ日本海・東シナ海系群の資源評価. 東京, 22pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202157.pdf>.
- 2) 増田義男・片山知史 (2022) 仙台湾におけるタチウオの漁獲動向と生物特性. 黒潮の資源海洋研究, 23, 49-55.

チダイ (*Evynnis japonica*)

生態

- ① 寿命：チダイの生態等の知見は成長や食性などが一部の海域で明らかにされているものの、分布域が広いにもかかわらず全体的に知見が少ない。
- ② 成熟：2歳になると産卵を開始し、産卵期に2歳魚は1回、3歳魚以上は3回の産卵を行うと推定されている。
- ③ 産卵期：一般に9～11月といわれている。
- ④ 分布：北海道南部から沖縄までの沿岸各地、朝鮮南部、東シナ海に分布する。。
- ⑤ 生態：未成魚期は端脚類、アミ類、エビジャコ、キシエビ、多毛類、魚類稚仔などを捕食し、成魚期では端脚類、エビ類、キセワタ類、イカ類、オキアミ、多毛類などを捕食する。

主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網、延網、一本釣り、定置網により漁獲される。

資源動向と水準

チダイの水揚量は、2000年代前半は10トン以下の低位水準で推移していた。2016年以降水揚量が増加し、2020年は200トンを超える中位水準を示した。2021年は増加し300トン以上であった。

直近5ヶ年の水揚動向から、資源動向、水準は増加、中位と判断された。



参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 67-72.

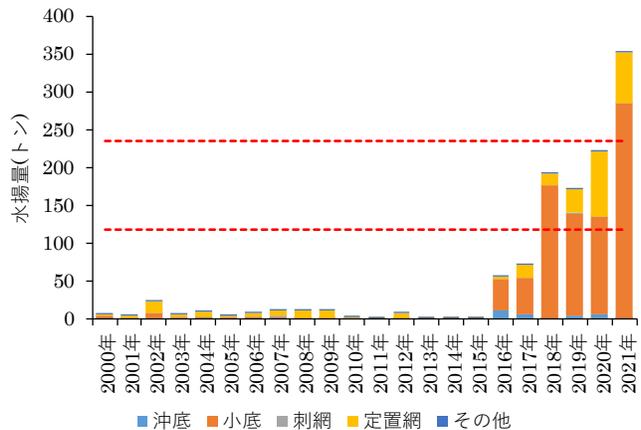
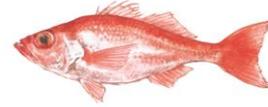


図1 宮城県におけるチダイの水揚量の推移
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す

アカムツ (*Doederleinia berycoides*)

生態

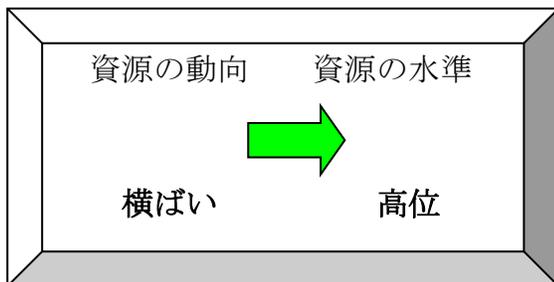
- ①寿命：雄では5歳，雌では10歳。
- ②成熟：雄では3歳で全長15cm前後，雌では3～4歳で全長20cm前後。キチジと異なり，成長・成熟が早い。
- ③産卵期：日本海では7月～9月。本県では不明。
- ④分布：日本海・東シナ海は青森県～九州南岸，太平洋側は北海道～九州南岸。近年福島～宮城県海域で増加傾向にある。季節的には夏季に浅い水深帯に移動する。
- ⑤生態：仔稚魚期はカイアシ類，幼魚はオキアミやエビ類などの甲殻類，成魚は魚類やエビ類を捕食する。

主な漁業と漁期

底びき網による漁獲が大半を占める。本県では沖合底びき網と小型底びき網による漁獲が多い。主漁期は夏～秋期。近年全国的なノドグロ需要の高まりにより，価格が高騰しつつある。そのため，刺網による大型で高鮮度のアカムツを狙った漁業者も見られるようになった。

資源動向と水準

アカムツの水揚量は，1997年に8.7トンを超えたが，1999年～2013年までは1トン未満の低位水準で推移した（図1）。2012年に卓越年級群が発生し，2014年に10cm台前半のサイズとなって漁獲対象となってから2015年以降は4.4トン～13.8トンの高位水準で推移している。2021年は9.6トンであった。



参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか（2021）アカムツ日本海系群（青森～山口）. 令和2（2020）年度調査報告書.東京，18pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/trends/202002.pdf>.

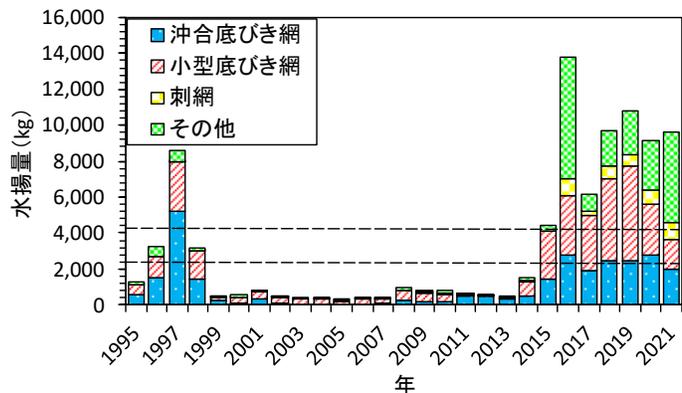


図1 宮城県におけるアカムツの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す

トラフグ (*Takifugu rubripes*)



生態

- ①寿命：10年以上。
- ②成熟：雄では2歳，雌では3歳。
- ③産卵期：産卵期は4～5月。本県で産卵しているかについては不明。
- ④分布：北海道～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海。近年東京湾周辺海域で急増し，2021年の秋～冬季には福島～宮城県海域で漁獲が急増した。
- ⑤生態：仔魚期は動物プランクトン，稚魚期は端脚類，十脚類，多毛類，昆虫類を捕食する。未成魚期はイワシ類，その他幼魚，甲殻類，成魚期は甲殻類や魚類を捕食する。

主な漁業と漁期

ふぐはえ縄，小型底びき網などによって漁獲される。本県では定置網，小型底びき網，刺網等によって漁獲される。2020年までは4～6月がトラフグ漁期であったが，2021年は県南部海域で10月～12月まではえ縄や刺網による狙い操業が行われて漁獲量が急増した。

資源動向と水準

トラフグの水揚量は，2009年までは3トン未満の低位～中位で推移した。震災のあった2011年を除く2010年～2014年までは中位～高位で推移し，2015年～2018年まではやや減少して中位水準となった。2019年以降は増加傾向となり，2021年は6.2トンの過去最高となった。

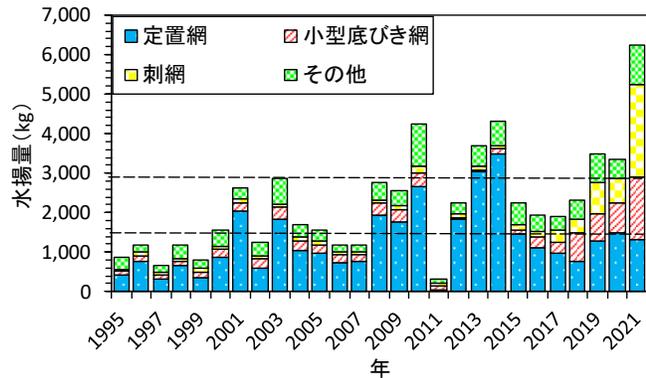
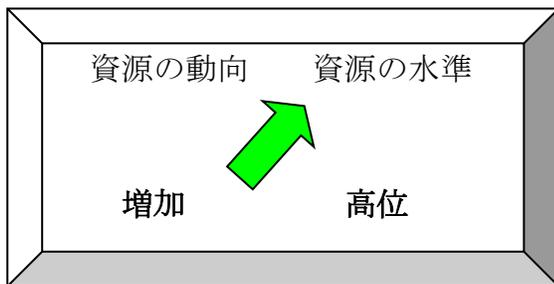


図1 宮城県におけるトラフグの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す



参考文献

- 1) 鈴木重則・山下夕帆・平井慈恵・西嶋翔太・山本敏博・澤山周平・青木一弘 (2022) 令和3 (2021) 年度トラフグ伊勢・三河湾系群の資源評価.東京, 49pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202174.pdf>.

ケンサキイカ (*Uroteuthis edulis*)

生態

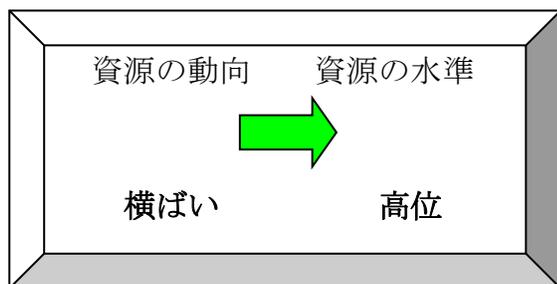
- ①寿命：1年。
- ②成熟：月齢約5ヶ月程度から成熟個体が出現し、8ヶ月でほぼ半数の雌が成熟する。
- ③産卵期：春～秋の長期間。本県では8～9月に産卵する。
- ④分布：青森県以南から東南アジアおよびオーストラリア北部に分布する。宮城県では2017年以降、夏秋季にケンサキイカが多獲されるようになり、沖合底びき網や小型底びき網をはじめとする沿岸・沖合漁業の重要魚種になりつつある。
- ⑤生態：小型の魚類、軟体類、甲殻類を捕食する。

主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網、小型底びき網、定置網等によって漁獲される。漁期は7月～11月。

資源動向と水準

ケンサキイカの水揚量は、2016年までは70トン未満の低位～中位で推移したが、2017年に急増し、以降高位で推移している。2018年にピークの339トンとなったが、2019年以降はやや減少し、2021年は103トンであった。ただし、2017年以降のケンサキイカの水揚物の中にヤリイカが多数含まれていたことが分かっており、過大に評価されている可能性がある。



参考文献

- 1) 佐々千由紀・酒井猛・依田真理・黒田啓行 (2022) 令和3 (2021) 年度ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源評価. 東京, 21pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/details/202179.pdf>.
- 2) 増田義男・時岡駿 (2021) 宮城県沿岸で漁獲されるケンサキイカの生物特性. 宮城水産研報, 21, 23-30.

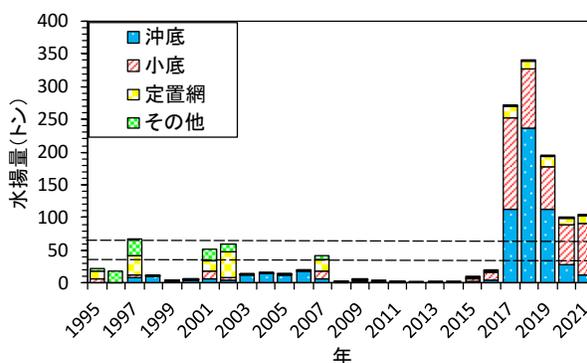


図1 宮城県におけるケンサキイカの水揚量の推移。上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す

主要魚種の資源水準動向一覧

2021年宮城県主要魚種資源水準動向一覧

No.	魚種	動向	水準	備考	No.	魚種	動向	水準	備考
1	マイワシ		中位	暖水種	26	キチジ		高位	
2	マサバ		高位		27	キアンコウ		中位	
3	ゴマサバ		低位	暖水種	28	ケムシカジカ		低位	冷水種
4	マアジ		低位	暖水種	29	イラコアナゴ		低位	
5	サンマ		低位	冷水種	30	イトヒキダラ		低位	
6	スケトウダラ		低位	冷水種	31	ユメカサゴ		高位	
7	スルメイカ		低位		32	マダイ		中位	暖水種
8	クロマグロ		低位	暖水種	33	カナガシラ		中位	
9	カタクチイワシ		低位	暖水種	34	ウマヅラハギ		中位	
10	マダラ		低位	冷水種	35	ヒラメ		高位	
11	ブリ		中位	暖水種	36	マコガレイ		低位	
12	サメガレイ		低位		37	マガレイ		低位	冷水種
13	カツオ		低位	暖水種	38	ホシガレイ		中位	
14	メバチ		低位		39	ババガレイ		高位	冷水種
15	キハダ		中位	暖水種	40	ヤリイカ		高位	
16	ピンナガ		中位	暖水種	41	ジンドウイカ		中位	
17	メカジキ		中位	暖水種	42	マダコ		中位	暖水種
18	シロサケ		低位	冷水種	43	ミズダコ		中位	冷水種
19	イカナゴ		低位	冷水種	44	ガザミ		中位	暖水種
20	ツノナシオキアミ		低位	冷水種	45	アカガイ		中位	
21	サヨリ		高位		46	タチウオ		高位	暖水種
22	スズキ		高位		47	チダイ		中位	暖水種
23	サワラ		中位	暖水種	48	アカムツ		高位	暖水種
24	アイナメ		低位		49	トラフグ		高位	
25	マアナゴ		低位		50	ケンサキイカ		高位	暖水種

※冷水種10種のうち8種が低位水準となっている。

※暖水種16種のうち13種が中位～高位水準となっている。また、暖水種のうち、広域性の魚種は低位の割合が多い。